

## 研究概要

### 1. 研究名称 または課題名テーマ等

腱板断裂患者における鏡視下腱板修復術後の治療満足度に影響を与える因子の検討

### 2. 研究責任者(当院)

所属：リハビリテーション室

氏名：奥村太朗

共同研究の場合は代表機関 及び 代表者名

機関名：なし

代表名：なし

### 3. 分担研究者

所属：整形外科

氏名：梶原大輔

所属：リハビリテーション室

氏名：小川侑男、廣田知佐恵、白井智裕

### 4. 研究対象者

2021年8月1日～2023年月8日1日の間に聖隷佐倉市民病院に入院し、肩腱板断裂に対して鏡視下腱板修復術を予定し、術前から術後2年間の身体計測および評価の同意書に署名された方

### 5. 研究の必要性

肩腱板断裂は、腱の退行性変化を基盤に50歳以上の中高年に好発する。また、若年者も転倒などの何らかの外傷を契機に発症することも多い。主な症状は夜間痛、運動時痛、上肢挙上困難、筋力低下であり、日常生活や余暇活動に支障をきたす。特に70歳より若い世代は仕事やレクリエーションにおけるアクティビティーレベルが高く、手術療法を選択することが多い。手術療法の一つとして当院では鏡視下腱板修復術が施行される。われわれ理学療法士や作業療法士は十分な身体機能の改善や仕事、レクリエーション活動の復帰を目標とした術後リハビリテーションを提供する。しかし、患者ごとに目標とする治療ゴールが異なることや術後の回復程度が患者の病態により大きく異なるため、稀に主観的な治療満足度が低い患者が存在する。治療満足度に影響を与える因子を明確にすることは、治療満足度の改善やリハビリテーションのプログラムの構築、術後経過の予測、患者指導をおこなう上で重要であると考えられる。

### 6. 研究等によって生ずる個人への影響と医学上の貢献の予測

研究等によって生ずる個人への影響は、身体計測および評価をおこなうにあたり、身体や心身に負担が生じる恐れがあることである。対策として、実施中に対象者が身体や心身にストレスを感じた場合、いつでも中止が出来ることを研究依頼書に記載し、口頭でも十分に説明する。また、体調確認やバイタル測定をおこない、何らかの異常があれば実施を中止する。万が一、実施中に対象者の体調不良があれば、当院リハビリテーション室の急変時対応マニュアルに従い、担当医師に報告し、主治医の指示に従う。あらかじめ、リスクについて紙面と口頭にて十分に説明する。

今回の検討により医学上の貢献の予測としては、治療満足度に影響を与える因子を明確にすることでリハビリテーションのプログラムの構築や術後経過の予測、患者指導などの一助とすることができる。

### 7. 対象者、関係者等からの問合せ先(当院)

連絡先番号：043-486-1151 (代表)

担当者氏名：リハビリテーション室 奥村 太朗

対応時間：8:30-17:00

共同研究において専用窓口がある場合

なし

#### ※ご注意

対象者とは、本研究に参加された方です。  
お問合せは、本研究に参加された方と  
研究関係者のみで、その他の方へのご対応  
はできませんので、予めご了承ください。